

今後の本市の状況は、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少などにより、歳入の根幹となる市税は減少することが見込まれます。健全な財政を確保するため、市債の発行を抑制することで、歳入規模は、ほぼ一定で推移することが見込まれます。

一方、歳出では定数管理を行うことで人件費は微増で留まるものの、急速に進む高齢化によって福祉分野などの行政需要が増大し、扶助費が増加することが見込まれます。また、今後は公債費（市債の償還や利子の支払いに要する経費）が高水準で推移し、歳出規模は年々増加することが見込まれます。

このような状況を転換していくため、重点的に実施すべき施策や事務事業に、行政資源を重点的に投入する「選択と集中」を徹底した上で、事業費および事業の実施時期の精査が必要になります。また、国・県・各種団体などの支援を最大限、有効に活用し、後年度の公債費負担を考慮しながら、有利な地方債の活用に努めるとともに、基金などを活用していくことが必要になります。

表1 今後5年間の財政収支の試算（一般会計）

単位：百万円

			平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
歳入	市税	見通し	28,134	28,107	28,339(29,339)	27,221	27,271
		実績	28,429	28,699	—	—	—
	国・県 支出金	見通し	18,005	18,584	19,162(47,098)	19,542	18,613
		実績	17,557	17,557	—	—	—
	市債	見通し	5,917	5,838	6,904(7,339)	8,294	12,907
		実績	6,030	4,720	—	—	—
	その他	見通し	19,074	19,112	20,835(21,153)	21,493	19,043
		実績	21,208	22,478	—	—	—
	歳入合計	見通し	71, 130	71, 641	75, 240 (104, 929)	76, 550	77, 834
実績		73, 224	73, 454	—	—	—	
歳出	人件費	見通し	11,499	11,612	12,161 (12,107)	12,369	12,227
		実績	11,110	11,355	—	—	—
	公債費	見通し	6,949	7,300	7,338 (7,338)	7,131	7,293
		実績	6,999	7,260	—	—	—
	扶助費	見通し	17,236	17,696	17,946 (18,359)	18,539	21,064
		実績	19,525	20,128	—	—	—
	普通建設事 業費	見通し	6,206	6,049	6,432(7,116)	5,895	15,428
		実績	7,432	4,345	—	—	—
	その他	見通し	29,240	28,984	31,363 (60,009)	32,616	21,822
		実績	28,158	30,366	—	—	—
	歳出合計	見通し	71, 130	71, 641	75, 240 (104, 929)	76, 550	77, 834
		実績	73, 224	73, 454	—	—	—
収支差額			0	0	0	0	0

※数値は資料作成時点であり、今後、変動することがあります。

※令和2年度の見通し額における括弧内は、新型コロナウイルス感染症に関連する補正予算（令和2年度春日部市一般会計補正予算（第7号））を加味した後の数値